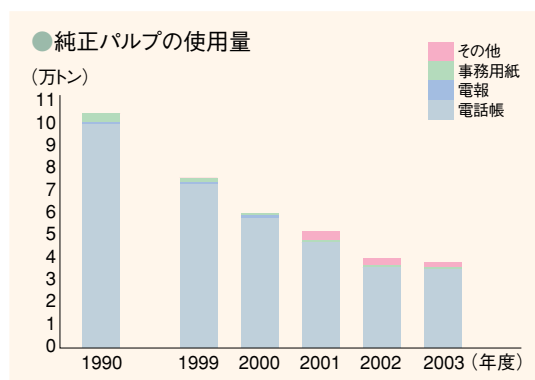


紙資源の節減と回収・リサイクルを推進しています。

純正パルプ使用量の節減を推進

Web検索 17-1

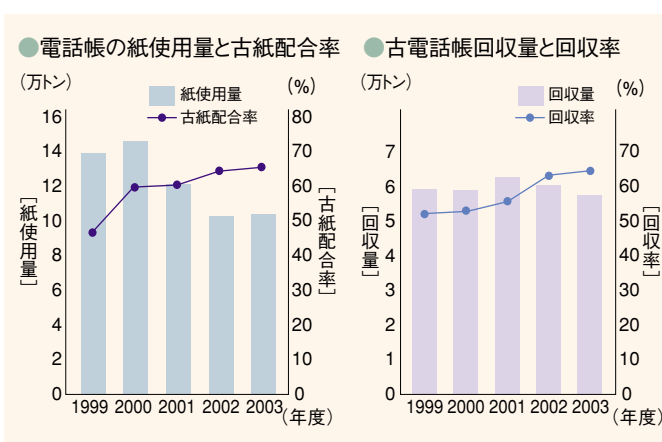
大気汚染を緩和し、地球温暖化の抑制力がある森林を保護するため、NTTグループでは、紙使用量の節減、とくに純正パルプ使用量の節減に取り組んでいます。具体的には、電話帳のリサイクルをはじめ、オフィスでの再生紙利用や、イントラネットを用いた決済システムなどによるペーパーレス化を実施することにより、純正パルプの使用量を節減しています。1990年度、10.5万トンあった使用量は、2003年度では3.7万トンに減少し、NTTグループ主要行動計画目標で定めた目標値(8.4万トン)をすでに達成しており、新たな目標を設定することを考えています。



電話帳リサイクル・古紙配合率の向上

Web検索 17-2

電話帳を発行しているNTT番号情報では、古い電話帳を使って、新しい電話帳用紙に再生する「クローズドループ(循環型)リサイクルシステム」を構築・運用しています。この仕組みでつくられた電話帳は、2001年9月発行版から、お客さまにお届けしています。2003年度は、原材料となる古電話帳の回収率の拡大に努めた結果、回収率は約65%となり、回収量は約5.7万トンでした。さらに、古紙配合率向上に努めた結果、古紙配合率は約66%まで向上しました。



また紙資源の使用量そのものの節減を図るために、ハローページ(50音別電話帳)の発行方法の見直しや、新しく電話を引かれるお客さまや引っ越しされるお客さまへの電話帳要否確認などを徹底しています。

地図のデジタル化で紙資源を節減

Web検索 17-3

紙資源節減の有効な手段の1つに、情報の電子化があげられます。NTT-MEおよびNTTネオメイトグループは、随時収集している地形や家形の変化情報を反映した全国詳細デジタル地図を作成し、2000年10月よりNTTグループ内での利用ならびに自治体や公益事業者への提供を開始しました。2003年9月の改訂版は、緯度・経度ベースの世界的な測地基準への対応や、多種類の出力フォーマットで提供するなど、多様化・高度化するニーズに対応しています。



環境汚染の未然防止に努めています。

グループ全体で環境リスク対策を推進

Web検索 18-1

NTTグループでは、自主的な調査によって発見された土壌汚染への対応をはじめ、下水道法の基準値に対する突発的な超過への防止対策、PCBの保管、電磁波への対応などに関して、ガイドラインやチェックリストを作成し、予期しな

い事故や汚染の防止に努めています。

なお、2003年度は土壌汚染・水質汚染などの事故は発生していません。

PCB使用物品の撤去推進と適正管理

Web検索 18-2

NTTグループでは、PCB特別措置法にもとづき、使用物品の撤去推進と、撤去した物品の適正管理を行うとともに、PCB特別措置法と電気事業法にかかわる報告書を行政に提出しています。2003年度はPCB使用物品の撤去をさらに推進し、残数量はトランス2個、コンデンサ95個、安定器9,518個となりました。保管数は右表に示すとおりであり、今後も継続して撤去推進と適正管理を行っていきます。

●PCB使用物品の保管量

	2003年度
トランス(個)	161
進相コンデンサ(個)	2,683
装置内コンデンサ(万個)	3.5
安定器(万個)	51
ノンカーボン紙(トン)	15.6
廃油(ℓ)	2,179

研究所の一人ひとりが環境の保全と改善に積極的に取り組む

Web検索 18-3

NTT先端技術総合研究所(厚木研究開発センタ)では、環境保護の重点施策として化学物質の適正管理に積極的に取り組んでいます。

同センタでは、ナノテクノロジーにもとづく革新的デバイスの開発を目指して多種多様な化学物質を使用しています。そこで化学物質取り扱いの三原則「より環境への負荷の少ない化学物質を使う」「必要なものだけを使う」「必要な量より多く使わない」を定め、環境負荷の低減を図っています。

化学物質の使用により、環境汚染物質を含む排出物(廃棄物、廃液)が発生する可能性があります。廃棄物は回収し、信頼できる廃棄物処理業者に処理を委託しています。廃液はセンタ内の廃液処理施設で処理し、排水基準を超えないことを水質検査で確認し、公共下水に排出しています。さらに、大気、下水、地下水、土壌などの検査を定期的に行い、環境汚染を監視しています。

環境関連設備を正常に運用するためには、設備の計画的な更改・改善が必要です。2003年度は、排気処理設備(スクラバ)、廃液処理用薬品供給設備等について更改・補強を

実施しました。

化学物質の適正管理には、このような施設面での施策も必要ですが、化学物質を取り扱う人が環境負荷の低減に努めることが重要です。同センタでは1999年12月にISO14001の認証を取得し、研究所の一人ひとりが環境の保全と改善に積極的に取り組んでいます。

